

# 二胡の演奏を聞きました。



ボランティアで二胡を演奏してくださる中込様が、ショートステイみらいで演奏してくれました。曲目は、懐かしい曲ばかりで利用者様も二胡の音色に聞き入っていました。また、二胡の演奏と共に歌う場面もあり、とても楽しい時間を過ごしました。中には、この楽器の演奏を初めて聞く方もいて、「ありゃ、何て言うもんだ？」と聞かれていた方もいました。二胡の音色は、何か日本人の心に響くものがありますので、良い演奏会になりました。

S  
S  
み  
ら  
い  
新  
聞

第 66 号  
2019 年 2 月  
発行責任者  
新津 尚

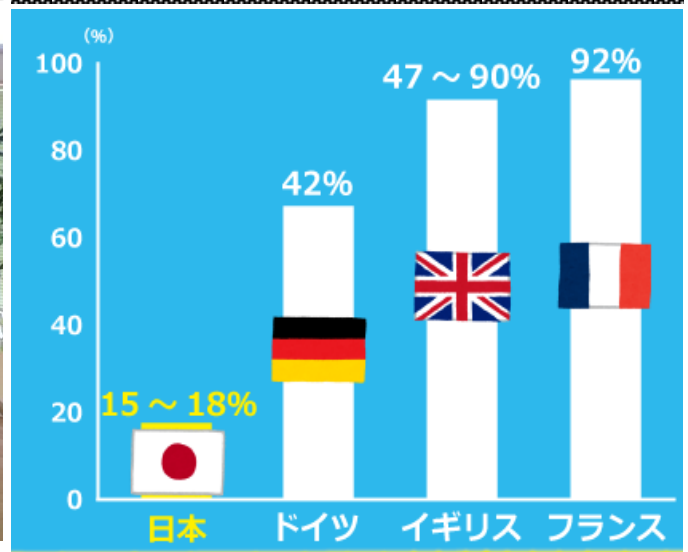
# 豆まきをしました。



2月3日には、「豆まき」をしました。皆さん鬼に向かって「鬼は外！」「福は内！」とたくさんの豆を投げました。投げた後は、「歳の数だけ食べるだよ」というと「ほんねん食べれんじゃんけ」という答えが返ってきて、大笑いした豆まきでした。

いつもなら赤鬼の仮面なのですが、今年の仮面は「青鬼」にしました。しかも「もう痛くて、痛くて」と涙を流している青鬼さんでした。その話にも皆さんが大笑いする、楽しい豆まきでした。

# 生活保護の捕捉率の国際比較



生活保護を受けるべき人の何割が実際に生活保護を受けているかは捕捉率という言葉で評価されています。そして日本の捕捉率は15~18%程度にすぎません。

日本では、生活保護が必要な人の8割以上は、生活保護を受けていないということです。民主主義国家における捕捉率は、その国の社会福祉への関心の高さによって変化するとすれば、日本は、社会的弱者に冷たい国ということになります。高齢者が増える中、早期に対策してほしいですね。